

ゴウツのエキマエ

2014新春号
江津駅前地区
活性化推進協議会

ゴウツのエキマエを考える その三

江津駅前公共公益複合施設の計画固まる

昨年末、江津駅前市民交流施設等実施設計業務委託に係る公募型プロポーザルが実施された。県内外10社から提案さ

れた計画は、2日間にわたってグリーンモール内にも公開展示され、市民からのアンケートも受け付けた後に選定委員会で

一つにしぼられた。どんなプランが選ばれたのか、明らかにした全貌を紹介しながら、施設と江津の未来を探る。



最優秀提案者（特定業者）株式会社社会の提案する施設イメージ図

四方どこからでもアクセスできるオープンな場所。これがイラストを最初に見たときの印象だった。多くの人が集い賑わいを生むという事業コンセプトが、造りから伺えた。

施設は瓦がふんだんに使われた二階建て。一階は、子育てサポートセンター、カフェ、市民ギャラリー、フードスタジオ、観光案内所、演舞ステージ、交流広場。二階は、就業支援相談室、多目的ホール、各種会議室、総合福祉センターなどが配置された回遊構造。子どもから高齢者まであらゆる世代が気軽に立ち寄り、学び、遊ぶ場所とし

て交流できる施設は、現在、市内にはなく期待値は高い。

江津市が策定を進める中心市街地活性化基本計画がある。今回の施設はその計画の大黒柱である。そもそも中心市街地は、地域経済・社会の発展のバロメーター、つまり町の縮図である。

だからといって、中心市街地だけ整備しても、まち全体が活性化するのは難しい。まち全体を活性化させた結果、中心市街地も活性化するのである。この計画は、中心市街地を再生するための事業構築が求められており、そのために施設をいかに有効活用するかという考え方を市民全体として持つべきだろう。また、イラストと併せていくつかの活用例が挙げられているが、単なる施設活用だけを考えた実施設計であってほしくないというのが正直なところだ。

改めて「江津」をみている。この町に必要なものは、希薄となりつつある人とのつながり、つまりコ

ミュニティの形成が第一にあげられ、それを助ける機能がこの施設にも求められている。言い換えるなら、様々な手法と機会提供によって人の交流が生まれる仕組みが必要というわけだ。建物だけではない。そこをどういう風に、誰が活用していくかという中身が重要であることを再認識すべきである。機能しなければ、建物が本来もつ力が発揮されることはない。入居予定の機関の連携も一つのテーマだ。横の繋がりによって活用の幅は大きくなり、これまで町になかった新たな繋がりが生まれるに違いない。これらを繋ぎ合わせる役割もこの施設には求められるのではないだろうか。イメージ通りに活用されれば、この駅前には劇的な変化をとげるだろう。

この計画にある数々のように、市民、そしてこの町を訪れてくれる人々との縁が重なり、多くの交流から新しい変化が生まれることを切に願う。そして、その交流は他の誰でもない、自分たちで作るもの、行くものなのだから、自分自身でこれを創り出すこと、これを自覚しなくてはならない。この町での暮らしをより豊かに楽しみたいものにするために、町に対して主体的に関わることが求められる。私たちが自身がこれからの新しい地域経営に関わっていくのだという姿勢を持ち、新しい地域体系の構築に参画していかなければならない。（三浦）

※関連記事：かわらばん2月号

昨年11月、江津駅前の方葉の里商店会会員、市役所職員ら有志13名が、佐賀県佐賀市の中心市街地での活性化の取り組みを視察した。今後、江津駅前が変わっていく中で、当事者の一人である商店会の人間として、どうまちづくりに関わることが出来るのか他地域の事例を知っておこう。というのが今回の目的である。

現地を案内してくれたのは、「NPO法人まちづくり機構ユマニテさが」の伊豆哲也さん。伊豆さんによると、佐賀市も江津市と同じく今後人口が減り、高齢化率が上昇する見通し。一方で、中心市街地の居住者は平成12年から平成24年まで増加。地価が下落してマンション建設が進んだことがその要因とのこと。ところが、中心市街地を歩く人の通行量は平成2年をピークに減り続けている。実際に佐賀市中心市街地にある商店街を歩いた。日曜の昼間、人口約23万人の佐賀市中心部ということ考えれば、確かに人通りは少ない。この商店街の店舗構成は、事務所が最も多く、次いで夜間営業の飲食店、昼間の賑わいにつながる店舗は少ないと伊豆さんは分析する。「街に賑わいが必要だ」とよく言われるが、目指すべき

賑わいとは何だろうか。歩きながら視察メンバーのそんな会話が聞こえた。佐賀市の中心市街地活性化の目玉の一つは、空き地活用プロジェクト「原っぱ」。街なか空き地リビング。である。街なかには緑が少ないことへの対策として、空き地に芝生を敷き詰め、そこへ様々な機能をもつコンテナを設置。人の流れを創り出すことができつつあるそうだ。このプロジェクトのポイントは、地域住民らに呼びかけ、住民自ら空き地に芝生を植える作業をしてもらったことだ。そのことにより、「この場所は自分たちのものである」という意識が芽生え、原っぱやコンテナを積極的に利用するようになってい

る。さて、今回の視察を受け、江津駅前の方向性をどう考えるべきだろうか。これまで商店会では、手つなぎ市、手つなぎ土曜夜市などイベントの実施に加え、「528」の運営など、継続的に人が集まる場づくりや、情報発信をし、賑わいづくりに取り組んで来た。次のステップは、「駅前には市民みんなのものである。」と、広く意識してもらおうこと。駅前には、決して駅前に住む人達だけのものではない。地域の枠にとらわれず、賑わいづくりに関わってもらうために、商店会として自分たちが出来ることは何か。帰りのバスの中、それぞれが自問自答した。（藤子原）

平成25年11月 実施

視察報告
商店会会員ら13名が参加

佐賀県佐賀市
コンテナで、街の賑わいづくり。



内外装ともにデザインが重視されたコンテナはグッドデザイン賞も受賞

江津市ビジネスプランコンテスト

Go-con2013
大賞・審査員特別賞決定!

江津市ビジネスプランコンテスト (Go-con2013) 最終審査会が、昨年12月15日(日)、江津商工会議所にて開催された。会場には150名超の来場者があり、一次審査を通過した六名による公開プレゼンテーションが行われ、大賞に和智智之さん(浜田市在住)が「滝沢公園活性化計画 思い出に残る公園へ」プランで受賞、また審査員特別賞に田中健一さん(江津市在住)、飯田亮子さん(東京都在住)がそれぞれ決定した。

田中さんのプラン「お湯につかってコミュニティの広がり」を創出、江津駅前銭湯再生計画」は、駅前の元銭湯を活用し、2年後のオープンを目指して田中さんを含む3名のポリテクカレッジ学生で現在改装中。改装の様子は、52BarのFacebookページでも紹介している。▼ www.facebook.com/52Bar

第2次出資金募集中

江津駅前ホテル建設にご協力を!

活性化を目指す江津駅前地区の主要な民間事業として進められている駅前ホテル建設事業は、江津市のまちづくりに必要不可欠な事業として、多くの企業や市民に参画を求め事業推進が図られている。

現在は、事業主体である㈱江津未来開発(江津市嘉久志町今井久御社長)による出資金募集集中(1株:5万円)であり、昨年12月に市内企業を中心として行われた第1次募集では、33法人・10個人から募集枠を満たす2800株(1億4千万円)の出資があったところ。第2次募集は2月末を申込締切日として(払込期限は3月20日)、1000株(5千万円)の募集が計画されており、市内各所での事業説明会等を通じ、広く市内事業所や一般市民、市外縁故者へ出資のお願いをする予定。

計画概要は鉄筋コンクリート6階建て(延床面積:1474㎡、客室71室)総事業費約4億8千万円、建設場所は江津町あけぼの通り。㈱スーパーホテル(大阪市)のフランチャイズ店として本年6月工事着工、平成27年7月オープンを目指している。

ホテル建設
事業説明会

- 2/4 (火)
13:30~ 旧日本海信金 (あけぼの通り)
19:00~ 都治公民館 (都治町)
- 2/6 (木)
19:00~ 渡津交流館 (渡津町)
- 2/7 (金)
13:30~ 波子公民館 (波子町)
19:00~ 都野津公民館 (都野津町)

お問合せ

江津商工会議所
江津駅前地区活性化推進協議会 tel: (52) 2268
・(株)江津未来開発(江津商工会議所内) tel: (52) 2268

■ 定員40名・事前申込制

江津で映画を観る会
『リカとルカ』

2/23 (日)

「私たちは、今、旅立ちの準備をしている。」
松江大橋の南詰にあるカフェで働く、鷺浦で生まれ育った双子の少女リカとルカの物語。

- 【場所】駅前KITCHENキチ
江津町15172
- 【時間】午後17時~
- 【料金】大人1500円
(1ドリンク付)
- 【申込】てねっと石見
(52) 71330



写真展 at 52Bar
『とねりゆ〜田』

2/28~ (金)

今、江津にある変わろうとするパワーに魅かれ、自分もこの町で表現したいと語る杉村さん。この町に新たなスパイスをもたらす新作を一挙公開。

- 【場所】52Bar (ゴウツバー)
江津町1517
- 【日時】2月28日(金)~
3月22日(土)
- ※期間中の営業日
(金・土夕方6~9時)
- 【問合せ】てねっと石見
(52) 71330



駅前朝市

毎月第2土曜日

江津駅前のコミュニティスーパー「万葉亭」の店頭にて、毎月第2土曜日に朝市を開催中。毎回テーマを変えながら、朝市限定の品もとりそろえています。

- 【場所】万葉亭(江津町152074)
- 【時間】午前9~11時
- 【問合せ】万葉亭(52) 2727

コラム

●●が見た、江津③

『江津の夜明け前』

江津に生まれ育った私は、江津のことが大好きだ。なぜか? 江津という町が、人間と同じように生きているからだ。人間は、生まれてから成長し、老い、そして子孫にバトンタッチをしていく。江津も同じように、成長の時代もあり、衰退の時代もあった。そして今、大きく変わろうとしている。そんな江津だから面白い。

江津は、大きく3つの特徴をもっていると言える。1つ目は、人口が少ないこと。

長谷川 満 (江津市出身/神奈川県在住)

2つ目は、産業が目立たないこと。そして、3つ目は、これといった特徴がないこと。これら江津の環境は、バツグンに成長する要素が満載だ。

人口が少ないので、結束力を創りやすい。産業が目立たないので、これからどんな産業でも目立たせやすい。そして、特徴がないから、これといったイメージもなく、これらいかようにも特徴を創りやすい。こんな江津は魅力満載だ。

これから、江津の夜が明ける。



photo by Kenji Yamano

江津駅前新店舗が

ホッパ

きらく

江津市江津町1214
TEL: 090-1443-7289
営業時間: 11:00-14:00
17:30-23:00
(日祝は21:00まで)
定休日: 火曜日



昭和30年頃、屋台で始めた老舗ラーメン店。昨年8月の豪雨災害で江津本町の店舗が浸水。一時は店をたたむことも考えたが、多くのファンからの「続けてほしい」の声に支えられ、江津駅前にリニューアルオープン。

ネイルサロン
アリュール

江津市江津町9146
TEL: 080-6269-8111
mail: allure8@ezweb.ne.jp
LINE ID: allure8
営業時間: 9:00-21:00
定休日: 不定休(予約制)



ネイルを普段着のように気軽に楽しんでもらいたい。そんな想いを胸に江津出身の店長がUターンし、12月にサロンをオープン。カラーリングの他、ケアやパックなども取り揃えており、江津の女性の美をサポートしてくれる。

編集後記

年が明け、駅前ではいよいよ公共施設複合施設建設に向けて一部取り壊しが始まりました。寂寥の念はひとしおですが、一方で年末に新店舗が立て続けにオープンするなど、新しい仲間も増えつつあります。江津市の額である駅前を市民全体で盛り上げ、市内外から人が集い、多世代・他地域間の交流が次々と生まれる。そんな明るい江津の未来を皆で築きたいですね。(岸本)



Illustration by DS2

ゴウツエキマエ
ショップ

お問い合わせ先: NPO法人てねっと石見
〒695-0011 江津市江津町1517-2
TEL: 0855-52-7130 FAX: 0855-52-7135

本報は、江津駅前地区活性化推進協議会からの委託事業でNPO法人てねっと石見が発行しています。